



【第3回】2022年11月公開

いきなり狭くなってしまう！『溷東綺譚』の頃からあった広い道路の謎とは？

今日は、まず浅草雷門からバスに乗って向島方面を目指してみます。出発したバスは、吾妻橋を渡り本所吾妻橋駅の交差点を左折して源森橋を渡ると、しばらくして水戸街道(国道6号線)に合流しました。

まずは「小梅あたり」のバナナスイーツ専門店へ

永井荷風さんの随筆『寺じまの記』には、代表作『溷東綺譚』の舞台である玉の井(現・東向島)にバスに乗って通っていた頃のエピソードが書かれています。

冒頭のバス乗車によって荷風さんのお出掛け気分をちょっとだけ追体験できたので、途中で降りてお目当ての店に向かいます。

この辺は、『寺じまの記』で「小梅あたり」と地名の出ていた一角。元々「小梅村」で、きっと梅の名所だったのでしょ。

バス停からしばらく歩いて着いたのは、「バナナファクトリー」。閑静な一角にあるバナナスイーツ専門店です。お店が入る建物の2階以上は住宅で、その入口の建物名板には「KOHME PLACE」の文字が。「KOHME = 小梅」でしょう、きっと。

住所や地名としては60年近くも以前になくなったけれど、長く親しまれた「小梅」は小学校、橋、町内会、そのほかの名前にまだまだ残っているようです。



▲「バナナファクトリー」外観。お客さんで賑わっています。写真にある木製の外装装飾を良く見ると、右上のレリーフと左下のイラストはどちらもマスコットキャラクターのゴリラです。オーナーの市村さんにそっくり(?)という噂もあるようです。



▲店外カウンターの右側が入口。床にバナナをかたどったプレートが埋められています。本物のバナナの皮だったら滑って転んでしまうかも。しかし、これなら心配ご無用！ 粋な遊び心が感じられます。

「バナナ尽くし」を堪能！

お店に入ると、冷蔵ケースや陳列棚に並ぶのはバナナスイーツ尽くしです。大学の友人同士だった男性2人がオーナーとシェフパティシエをつとめていて、開店から5年が経ちました。



▲外装と同じく店内も木調で、清潔感があります。



▲バナナのスイーツのオンパレード。どれを選ぶか目移りがしてしまい、決めるのが大変です！



▲かなり迷いましたが、バナナジュース(480円)とバナナショートケーキ(520円)をいただきました。バナナジュースは、注文を受けてからじっくりと手作り。とても濃厚な味わいです。

風変わりな「小梅通り」とは、どんなところ？

バナナに幸せをもらって、大満足。次に向かったのは、近くにある不思議な通りです。その名前は、地元らしさを感じさせる「小梅通り」。

かなり広い通りですが、実は1930年頃には完成しています。永井荷風さんが『寺島の記』や『墨東綺譚』を書いたのは1936年ですから、その頃にはこんな立派な道路が既にあったのです。

【「小梅通り」の位置図】



【出典】 時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」
(上記のとおり、両端の「小梅通り」と青色破線を加筆しています)

▲小梅通りの位置図です。曳舟川通りの北側50mくらいの場所をほぼ並行して走っています。

不思議なのは、この通りの北東側の終点あたりの風景です。広がった通りが突然、行き止まりに近いくらい狭くなっているのです。次の地図と写真を見てください。

【「小梅通り」の道幅が突然狭くなっている箇所の状況図】



【出典】 時系列地形図閲覧サイト「今昔マップon the web」
(上記のとおり、青色破線を加筆しています)

▲拡大した地図で見ると、不自然なくらいに道幅が突然狭くなっています。



▲小梅通りの北東側終点の少し手前です。右側対向車線の奥は、建物(居酒屋)で行き止まりとなっているかのように見えます。

「小梅通り」の謎とは？

墨田区は、以前は「本所区」と「向島区」に分かれていました。両区が合併して今の墨田区となったのは1947年のこと。そして「向島区」(1932年10月設置)のエリアは、それ以前は当時の「東京市」外の郡部(南葛飾郡)でした。



▲小梅通りの北東側終点付近の状況です。実は、横断歩道のあたりから下側が旧・本所区、上側が旧・向島区という、昔の区の境界エリアなのです。

いろいろ調べてみると、地元の町内会「押上一丁目仲町会」のホームページの中に「小梅通りの怪」という記事があり、とても参考になることが掲載されていました。
要点は、こんな内容です。

- (1) この道路は、1923(大正12)年9月1日に発生した関東大震災の復興事業として計画され、1930(昭和5)年頃までには完成している。
- (2) 但し、整備されたのは当時の本所区エリア内だけ(筆者注:北東側に隣接する旧・南葛飾郡側には現在の細い道路すら当初はなかったようです)。向島区への延長計画は、日中戦争や太平洋戦争で中断した。
- (3) 戦後、曳舟川を埋め立てて幅広い「曳舟川通り」が整備されたので、同じようなエリアを平行して走る小梅通りをさらに延長する必要性がなくなってしまった。そのため、現在の「行き止まり」のような状態になっている。

[参考資料]

押上一丁目仲町会ホームページ内「地域の歴史探訪」～「24.小梅通りの怪」
https://www.oshinaka.com/1251.html#content_1_0

つまり、小梅通りの行き止まりのような様子は、墨田区がかつての2つの区に分かれていたことの名残り。もっと詳しくいうと、当時の東京市の市内と市外の境界の痕跡なのです。

荷風さんが乗ったバスルートでは、こちらは通りません。しかし、その当時からこんなに広い道路だった。そして突然狭くなっているところが、2つのエリアの境界の痕跡なのだ。この通りの不思議な様子が、いろいろなことを教えてくれました。

かつての境界をたどっていった先は北十間川。今宵のお店は…

折角なので、かつての2つの区の境界あたりをたどって、南側にそぞろ歩きをしました。東武や京成の線路を越えて進むと、十間橋の手前でかつての境界は北十間川に合流していました。

かなり歩いたのもう夕暮れ時。今日は、これから一人酒を楽しみたいと思います。向かったのは、すぐ近くの「酒庵 酔香」。品揃えが豊富な日本酒バーです。



▲「酒庵 酔香」外観。十間橋通りに面していますが、隠れ家のような雰囲気があります。カウンター席だけで席数も多くないので、事前に電話予約することがオススメです。



▲店内も昭和レトロの渋い雰囲気。実は、酒屋だった古い建物を活かした店舗で、壁一面の一升瓶の棚も酒屋時代のものを活用しているそうです。日本酒の品揃えは、何と約300種類！

ご店主の菅原さん、実は大手出版会社のご出身。50歳で脱サラし奥さまと2人でこの店を開いて、はや12年半。サラリーマン時代に有名なレストラン雑誌の編集長をつとめていた経験や知識などから、小粒でも中身の濃いこだわりの日本酒バーを作り上げたようです。

こだわりは、お通しにも表れています。値段は1100円と少し高めですが、いかにもお酒が進みそうな料理が6種類も、少しずつキレイに盛られたプレートで提供されます。



▲この日のお通しのプレートです。見た目や色取りもキレイでおいしそう。下の段の中央は、ポテトサラダにいぶりがっこ(大根の漬物の燻製)を刻んだものが合わさっていて、絶妙な食感を楽しめます。いぶりがっこは、ご店主の故郷・秋田県の名物です。

日本酒をじっくりと味わいます

さてお酒は、もちろん日本酒を。あれこれ迷うよりも、お店のおススメをリクエスト。お願いするとすぐに応えてくれるところが、頼もしくてありがたいですね。



▲まずは、「松浦一」。佐賀県伊万里市にある小さな蔵元のお酒です。



▲次は、「紫宙(しそら)」。蔵元があるのは、岩手県の盛岡と花巻の中間あたり。日本酒作りの職人集団・杜氏(とうじ)にもいろいろな流派があるようですが、こちらエリアの「南部杜氏」では珍しい女性杜氏が担当しているお酒だそうです。ご店主のウンチクを聞いているだけでも勉強になります。

写真のグラスの量は半合90ml(1合180mlの半分)で、このお店の日本酒は半合400円での提供が原則になっています(量と値段に例外のものもあり)。日本酒の品揃えに自信があって、できるだけいろいろな種類をお客さんに味わって楽しんでほしいから。そんな心意気を感じられました。

おつまみを少しだけ追加しながら、日本酒を何杯か味わえて大満足でした。すぐ近くの十間橋に立ち寄って、川の夜風に少し当たって酔い覚ましをしてから帰ることにしましょう。



▲十間橋から眺めた東京スカイツリーの夜景。ここは、川面に映る「逆さスカイツリー」の名所でもあるのです。

今日のさんぽを振り返って

今日は、バナナと日本酒。それぞれ一点を極めようとするいさぎよさが感じられる小さなお店たちと出会うことができました。

そして、永井荷風さんがすみだの地をちよくちよく訪れていた頃からあった不思議な道路の光景。そこから墨田区の古い歴史の一端に触れる機会もあって、とても充実した一日でした。では、皆さんまたお会いしましょう…。



【お店情報】

※営業時間・定休日は変更となる場合あり。来店前に電話等で確認してください。

Banana Factory(バナナファクトリー)

東京都墨田区向島3-34-17 大橋ビル1F

TEL:03-6240-4163

営業時間:11:00~19:00

定休日:火曜・水曜

酒庵 酔香

東京都墨田区押上1-51-6

TEL:03-6657-0140

営業時間:(水曜~金曜)17:00~22:00(L.O21:00)

(土曜・日曜・祝日)15:00~21:00(L.O20:00)

定休日:月曜・火曜